## 2012 年度「ロシア地域研究方法論 1」

学生番号		名 前	
ても構いません			もいいですし、部分的に修正し こ適宜、取り消し線を引いたり、
	点を考えるとジェームズ氏の提 度領域では理論と実験が食い違・		現象を単純化しすぎている。少 然である。
	となるのは、前に述べたように 不安定になったりする。	、端子容量とケ	ーブル容量が大きすぎると発振
	方の指導は、歩道・路側帯など この二通りの指導がある。	の歩車分離があ	る時の歩き方と、歩車分離がな
	の新製錬法の開発努力もしてい		、別項にのべるように電力単価 価な地域へ出かけて製錬するこ

## 2012年度「ロシア地域研究方法論 1」

5. いくら理想の道路を造ろうと、起終点は人々の居住生活圏の中にある以上は、そして現実
に日本の道路幹線道路といえども居住地域のコミュニティ内を通らざるを得ない以上、居住
生活圏では、自動車の走行速度は、スピードに適応能力のない人々の住む地域なるがゆえに、
それが危機感を与えずにはいられない。進行方向はいくら見通しがよく、道路幅員がいくら
広く、設計速度がいかに高くとも、横断の交差交通を排除できず、交差点間隔が短く、歩行
者・自転車利用者がいる以上は、皮肉にもこれが、立派な道路ほど死亡重大事故の潜在危険
性の高い道路となる。